

# LEADプロジェクト進行中

開校2年目、着実に成長する川崎高校附属中学校1期生の姿

2015年  
9月8日  
取材



昨年の「CHUMAN進学ナビステーション」テレビ取材から1年。残っていたグラウンド工事は7月末に完成、8月29日には盛大な開校記念式典が行われました。成長した2年生の姿と和泉田校長先生、植村教頭先生のお話を楽しみに、9月8日に訪問しました。



**1期生の「伝える力」の高さ**  
今年から1学年3学級となった川崎附属中。2学年6クラスは校舎の2階、同じフロアで学校生活を送っています。和泉田校長先生は「2年生は1年生の入学を心待ちにしています。早速ICTの使い方を1対1で教えるなど、自分たちがリーダーなんだという意識を高く持ち、何事にも一生懸命に取り組んでいます」。教室の隣には職員室、同じ階に校長室があり、物理的にも生徒と先生方の近さが感じられます。水曜日の7時間目に充てられた自主学習時間では、生徒が先生に質問したり教えてもらったりときめ細かなサポートが行われているそうです。先生方は生徒に寄り添って一人ひとりをいねいに指導してくれています」と和泉田校長先生。



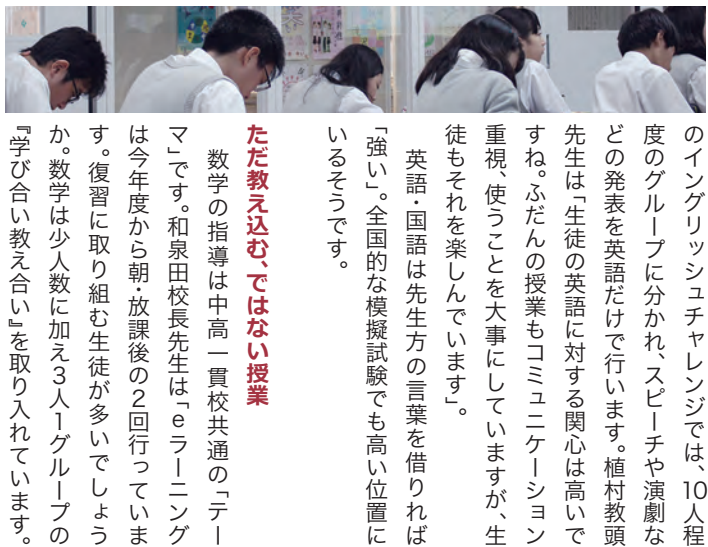
廊下の壁に掲示された生徒会役員選挙のポスターや「道」と大きく書かれた今年の生徒会目標など、生徒手作りのカラフルなポスターからは表現力の高さと、生徒が充実した学校生活を送っていることがうかがえます。メディアセンターには、これも生徒たちが作成した学校紹介のリーフレットが展示されています。

レットが展示されていますが、その完成度の高さに驚かされます。植村教頭先生は「2年生は表現することが好きで、また自信をもって生活しています。先日の記念式典は生徒が企画し、発表もすべて生徒が行いました。市長をはじめ来賓の前でも堂々と立派に式典を成功させました。そういった力は一朝一夕につくものではなく、日々の活動の積み重ねがあつてこそです」。学校説明会での生徒のプレゼンや、校舎に掲示される製作物から感じられる生徒の「伝える力」の高さ。それには一人1台使用のPCも役立っているようです。授業では自分の意見、考えを発信したり仲間の意見、考えを受信し、考えを深めたりという活動が日々活発に行われ、PCを使った日常的な製作活動がスキルを向上させているようです。

## 英語・国語は「強い」

もちろん、PCはツールの一つに過ぎません。発表活動、プレゼン機会が多く用意されています。たとえば社会科では、毎回の授業の最初に1分間スピーチがあります。気になったニュースについて自分の考えを皆の前で発表、聞いた生徒は自分の意見をPC上で返します。また、総合的な学習の「LEADタイム」では、枝豆栽培からみそ作りまでの体験を通し一人ひとりが探究テーマを設定し、3月には生徒全員が5分間の成果発表を行います。

日本語だけでなく、英語も同様です。1年生は7月に3日間のイングリッシュキャンプがあり、6人程度の少人数クラスでオールイングリッシュの授業を。12月



のイングリッシュチャレンジでは、10人程度のグループに分かれ、スピーチや演劇などの発表を英語だけで行います。植村教頭先生は「生徒の英語に対する関心は高いですね。ふだんの授業もコミュニケーション重視、使うことを大事にしていますが、生徒もそれを楽しんでいます」。英語・国語は先生方の言葉を借りれば「強い」。全国的な模擬試験でも高い位置にいます。

## ただ教え込む、ではない授業

また45分7時間のメリットを生かし、じっくりゆくり進めることもできます」。川崎附属中の数学は教え込んで先に進めるというより、「考え方」を重視した指導。植村教頭先生によると、数学のグループ分けは単に成績順ではなく、演習的に考えるのが得意、帰納的に取り組むのが好きという、生徒それぞれの学びやすさに応じて分けているそうです。苦手意識を持ちやすい教科だけに、その成果が期待されま

## 充実の学校生活

習。先生と生徒のやりとりから、距離の近さが伝わってきます。2年生の国語は弁論大会に向けた代表者選考会。ここでもプレゼン力の高さを実感します。1年前と比べすっかり成長した2年生の姿が印象的です。他のクラスは教室を移動しての実技教科。整然と並び机からも、生活指導がしっかりなされていることが分かります。2年生の音楽を見学しましたが、男子も照れることなく大きな声で合唱に参加しています。「1・2年生男女の有志が70人ほど集まり昼休み合唱団もできました」と植村教頭先生。音楽の先生の熱心な指導を慕って自然発生的に始まり、天気の良い日は中庭でコーラスを披露しているそうです。

## LEADプロジェクト進行中

が選んだ職場体験を3日間行いました。体験を通して働くことの意義や将来の夢を考える機会となりました。そして今度は働いている人に学校に来てもらいブリスに分かれそこで生徒が考えたこと思ったことをぶつけてみるというのやってみようと思つていきます」と和泉田校長先生。高校入試のない利点を生かしたキャリア教育も着々と進んでいるようです。

- ① 体験・探究の重視
- ② 英語・国際理解教育の推進
- ③ ICT活用

ですが、それらは着実に形となり、生徒の「成長」となって現れていることを実感した訪問となりました。最後に校長先生、教頭先生からのメッセージをお届けして訪問記の結びとします。

## 未来をLEADする人材を育てる かわさき LEADプロジェクト

※学校案内パンフレットより中萬学院作成

**L**earn  
学ぶ

**E**xperience  
体験

**A**ction  
行動

**D**ream  
夢

社会で活躍するための3つのキーワード

体験・探究 ICT活用 英語国際理解

- 中1では毎日英・数・国・授業
- 1コマ45分授業7時間の時間数
- 体験型学習、課題解決型学習による思考力・判断力・表現力養成
- ICT機器を用いた分かりやすく個に応じた授業展開
- 総合的な学習の時間の充実による、体験活動を通じた探究的な学習や国際理解教育の推進
- 課題発見と情報収集、情報の整理・分析とまとめる能力の育成
- 中高協同の生徒会活動・学校行事などを通して、自分で判断し行動できる人材の育成
- 学習発表会や研究発表を通じた、生徒の自己実現の応援
- 大学の研究施設等との連携や、社会人講話、事業所体験などを実施し、生徒の夢実現をサポート
- 社会観や職業観を育成するためのキャリア教育の充実



6年生5年生の皆さんは、まずは小学校の授業を本当に大切にしてください。テストは小学校の勉強が土台だからです。本校はみんなで学ぶ、みんなで頑張っているということを大切にしています。そういうコミュニケーションがしっかりできる子どもに来て欲しいと思います。1期生2期生が作った川崎附属中は良いスタートができました。このスタートを大切に、我々と一緒にこれから頑張っていきたいと思います。

知らなかったことが知れた、分からないことが分かるようになった、その実感をお私たちが大切にしています。当たり前になっていることも、目線を変えると「あれっどうしてだろう?」というのが世の中にはいっぱい転がっていて、それが次の文化の発展のタネになります。そういった疑問を追究していく勉強を、小学校でも、そして本校でも継続してほしいと思います。友だちと学び合ったり発表し合ったり、一生懸命取り組んでください。



いづみたまさのり 和泉田 政徳校長先生  
うえむらひるゆき 植村 裕之教頭先生

### タブレット型PCを活用した授業とICTスキル

「コラボノート」というソフトを使い、自分の意見を付せんにはるように入力。他の生徒の意見が画面で見られる。動画や写真も使えるので理科の実験観察レポートなども簡単に作れる。過去のデータも見られる  
■写真は2014年7月取材

